広報大洲　きらめき創造　大洲市
―みとめあい　ささえあう　肱川流域都市―

大洲

2012
No.92
9

～清流・肱川からのメッセージ～

がんばる大洲っ子

今月の題字作成者

三善小学校６年（現：大洲東中学校１年）

土　居　　颯（はやて）さん

今、一番頑張っていることは野球です。暑い中で行うベースランニングなどの練習はきついけど、練習試合でチームが勝った時はうれしいです。

とにかく体を動かすことが大好きで、学校でも体育の授業が一番得意です。現在は音楽が苦手なので、今後克服できるようにしたいと思っています。

中学校に進学して、より多くの友達ができ毎日楽しく過ごしています。大洲東中学校のいいところは、自然に囲まれ明るい人がたくさんいることです。

僕は、「継続は力なり」と言っていた野球のイチロー選手をすごく尊敬しています。

10年後には、イチロー選手のような周りから尊敬され、何事にも全力で取り組むことのできる人になっていたいです。

９月の納税など

納期限は10月１日(月)です

税　別	９月	10月	11月	12月
市県民税		３期		４期
固定資産税	３期		４期	
軽自動車税				
国民健康保険税	３期	４期	５期	６期

市税などの納付は、便利で安心な「口座振替」を！

現在の大洲

人の動き（先月比）

人口	47,596人	（＋113）
男	22,620人	（＋25）
女	24,976人	（＋88）
世帯数	20,267世帯	（＋77）

交通事故（昨年同期）

件数	113件（108件）
死者	１人（１人）
負傷者	133人（136人）

（2012年７月末現在）

CONTENTS

２ページ～　がんばる大洲っ子・目次
３ページ～　清流･肱川からのメッセージ（特集）
８ページ～　まちのわだい
10ページ～　シリーズ
12ページ～　おおずニュース
13ページ～　お知らせ
25ページ～　図書館・保健センター・心と体の健康ガイド
28ページ～　がんばるひと（正山風の会）

今月の表紙

picture 写真

８月４日（土）、ながはま赤橋夏まつりで、魚のつかみ取りを取材しました。

子どもたちよりも保護者の方がやる気になっているようで、熱い声援などを送っていました。

素早いハマチに悪戦苦闘しながらも、子どもたちは魚と触れ合うことができて楽しそうでした。

清流・肱川からのメッセージ

大洲市のほぼ中央部を貫流する一級河川・肱川。今月号では、私たちにとって身近な肱川について取り上げます。

1 八多喜地区付近から撮影した肱川の中流。この日も緩やかな流れで、川遊びをする親子連れの姿が見られた。

2 肱川源流を示す石碑（西予市宇和町）

3 肱川の水源地付近。この小さな水の流れが、やがて大きな流れとなる。

肱川は、延長103キロメートル、流域面積1210平方キロメートルで愛媛県下最大の一級河川です。

水源は、西予市宇和町にある鳥坂峠の標高460メートルに発し、途中で大小474の支流が伊予灘に注ぎます。肱川の支流の多さは、全国の河川の中で第5位となっています。

肱川の氾濫は、古来から常襲的な自然現象として人々を苦しめてきましたが、肱川のもたらすものは水害だけではありません。藩政期ごろから大洲藩により洪水被害を軽減するため、河畔に竹を植えることが推奨され、これを活用した竹細工・竹工芸が伝統工芸として興こりました。

また、河川の氾濫により、大洲平野に肥沃な土壌がもたらされ、野菜栽培が盛んに行われるようになりました。

肱川は水量もあり、流れもそれほど急でなかったことから、長浜地域は船を上手く利用することで、木材の一大集散地として栄えました。

このように肱川は、人々にさまざまな恩恵を与えながら、今も昔と同じ姿で人々の暮らしの中に溶け込んでいます。

肱川からの恵み

「今年は豊漁だ」と、アユを焼きながら穏やかな表情で語ってくれたのは、長浜の柴地区にお住いの上満武さん。

肱川漁業協同組合の組合員になったのは10歳の頃で、60年近くもアユ漁を行っています。

「アユはいろいろな物に使える食材」とのことで、この日も奥さんの久代江さんと一緒に焼きアユ、甘露煮、アユ寿司などを料理していただきました。

他にもアユ飯、さつま汁、茶碗蒸し、酢味噌あえなど、レパートリーも豊富にあるそうです。

そんな上満さんに、肱川についての思いを伺ってみました。

「肱川はアユをはじめ、カニ、エビ、カジカ、ドンコなどさまざまな食材を与えてくれる恵みの場所です。

肱川は、みんなが安らぎを求める場所でもあり、みんなの楽しむ場所です。昔に比べて水質の改善はまだまだと言ったところでしょうか。これからも清流・肱川であってほしいと思っています」

私たちの憩いの場所である清流・肱川。今、どんな状況にあるのか探ってみます。

7月21日(土)、大川地区や八多喜地区付近の肱川で、どんな水中生物がいるのか探してみました。アユやコイなどの魚類が8種類、カニなどの甲殻類が2種類、その他カゲロウなど、きれいな水に棲む生物もたくさん見つけることができました。

また、どの種類も生息数が多く、種類によっては容易に採集することができました。

今回の調査結果から見えてくる肱川の「今」について、普段から肱川の岩石や生物を見ている松井康之さんに話を伺いました。

【採集した生物（一例）】

カゲロウ類

アユ

サワガニ

カジカ（ヨシノボリ）

河辺中学校
校長　松井　康之（やすゆき）さん

「以前の肱川をもう一度」

私は、理科に興味を持っている市内の先生たちと、小学校高学年を対象とした自然科学教室の講師をしています。その中で、肱川に生息する生物を調べることを通じて水質調査することもあります。その結果から考えると、昔私がよく遊んでいた肱川とはだいぶ変化してきていると感じます。私たちの生活に伴う生活排水などによる汚染の影響は、確実に表れています。

私のよく知る肱川は、地域の社交の場そのものでした。夕涼みがてらに釣りに出かけて、近所同士が会話を楽しみ、釣れた魚を夕食に並べ家族で楽しんでいました。しかし、現在ではその光景もあまり見ることがなくなりました。つまり、肱川は、単に食材の恵みを与えてくれるだけではなく、人と人とを結びつける不思議な魅力がありました。今でも、以前のような肱川に戻ってほしいと願っています。

現在、肱川にいる生物は、私が幼い頃に見てきたものと変わってきています。私たちの生活に伴う水質悪化だけではなく、ブラックバスやブルーギルなどの外来種増加も問題の一つです。外来種は肱川全体に広がっていて、年々深刻化しています。

しかし、地域住民や行政、研究者などのあらゆる活動のおかげで、徐々にではありますが水質は元に戻りつつあると思います。その証拠に、一時は見ることが難しかった生物を数多く見つけられるようになりました。私たちがもっと肱川に関心を持ち活動を行うことで、より水質は改善されると思います。

肱川は、四国内でも十分きれいな川だと思います。しかし、子どもたちに財産として残すためには、今後、5年や20年という長期的な視点で肱川を見て計画を立てていくべきだと思います。また、人の生活と自然が共存できるような施策も行っていくべきだと考えます。

肱川は、全国的にもすばらしい川です。だからこそ、だれもが川へ赴き、今の肱川を知り、美しい肱川を後世に残したいと思う人がたくさん出てくることに期待します。私は、小さな活動でも積み重ねていくことで大きな力になり、それが肱川の環境保全につながると信じています。

清流を取り戻す

清流を守る取り組みは市内の各種団体や個人、大洲市で実施されています。

大洲市では、「大洲市肱川清流保全条例」が制定されています。

この条例は、失われつつある肱川の清流を保全し、次世代へ引き継いでいくために、カジカやメダカたちと共生できる肱川を目指して、最善の努力を積み重ねることを基本理念としています。今後も、大洲市では積極的に河川の浄化・保全に努めていきます。

また、市では定期的に肱川の水質を調査しています。五郎畑の前橋・肱川橋・冨士橋の3地点の3か年の数値は下表のとおりとなっていて、ややばらつきがあるものの、数値は緩やかに改善傾向がみられます。

肱川流域会議　水中めがねによる清掃活動

肱川本流標準水域　３地点

調査年月日	P　H 水素イオン濃度 6.5 ～ 8.5	B　O　D 生物化学的酸素要求量 2 mg／リットル以下	S　S 浮遊物質量 25mg／リットル以下	D　O 容存酸素量 7.5 ／リットル以上	大腸菌郡数 1,000ＭＰＮ ／ 100ml以下
①五郎畑の前橋					
平成21年５月	8.4	0.5	1	11.0	330
平成22年５月	7.5	0.9	1	9.9	79
平成23年５月	7.7	0.5	3	10.0	170
②肱川橋					
平成21年５月	8.1	0.5	1	10.0	23
平成22年５月	7.5	0.9	1	11.0	280
平成23年５月	7.5	0.5	4	10.0	230
③冨士橋					
平成21年５月	8.2	0.5	1	10.0	23
平成22年５月	7.4	1.1	1	9.9	220
平成23年５月	7.5	0.5	2	9.3	70

肱川は、みんなの憩いの場所です！

3

2

1

1 昼うかい
2 夜うかい
3 臥龍の渡し
4 カヌー
5 寒中水泳
6 ジュニアトライアスロン

6

5

4

清流を守る

7月21日(土)、肱北河原で「肱川流域会議　水中めがね」主催の清掃活動が行われました。

「第11回肱川レキ河原再生プロジェクト」と題したこの清掃活動は、河原を復活させることを目的に実施されたものです。

真夏日となったこの日、午前8時に集まったおよそ150人の参加者たちは、事業概要の説明を受けた後、各自清掃活動を開始しました。

河原の隆起している場所や、雑草が密集している場所については、流域内の企業ボランティアの重機で地ならし・除草を行いました。

除草やごみ収集を行った参加者たちは、汗が噴き出すような暑さの中、充実感を漂わせていました。

▽肱川流域会議　水中めがねの坂本芳教(よしのり)さんに話を伺いました。

坂本会長(右)と井関副会長(左)

「肱川流域会議　水中めがね」は市民と企業、行政が連携し、思いやりを持ってまちづくりを進めることを目的に設立しました。平成11年の設立以来、会員は市内外に約30人いて、ネット会員を合わせるとおよそ250人にのぼります。

水中めがねでは、矢落川大清掃や今回の肱川レキ河原再生プロジェクト、流域内高校生などを対象としたフォーラム「だんだん肱川」などの事業活動を行っています。

肱川は、私たちの生活に深く関わっているにもかかわらず、肱川に興味のない人は少なくありません。私たちが生まれた時からある川です。いつまでもきれいであってほしいと思っています。

そのためには市民のみなさんの協力が不可欠です。一人ひとりのちょっとした気遣いが大きな力になります。一人でも多くのみなさんに、私たちの活動に参加してほしいと思います。

水中めがねでは、今後も河川清掃活動を続けていきます。そして、清掃活動を通じて、大洲らしいまちづくりに貢献していきます。

肱川はそこに生息する命を育み、人にさまざまな恵みを与えてくれます。

ここで言う「恵み」とは、「食する」という命の連鎖だけでなく、憩いの場であったり、安らげる場所であったり、癒しの空間であったりします。

この貴重な自然を守り、育て、次世代に引き継いでいくことが、大洲に住む私たちに求められています。

肱川は私たちにとって、かけがえのない財産です。一人ひとりが考え、行動を起こし、清流の美化・保全に努めていくことが大切です。

ごみを捨てない、洗剤の適量使用を心がける、家庭用油はふき取り、排水溝に流さないようにする、水質を改善することができるEM(有用微生物群)活性液を活用するなど、身の回りのほんの些細なことから「清流を守る」ことができるのです。

さあ、始めましょう。

流域に住む私たちを育ててくれた肱川を、子どもたちに清流のまま引き継ぐために。